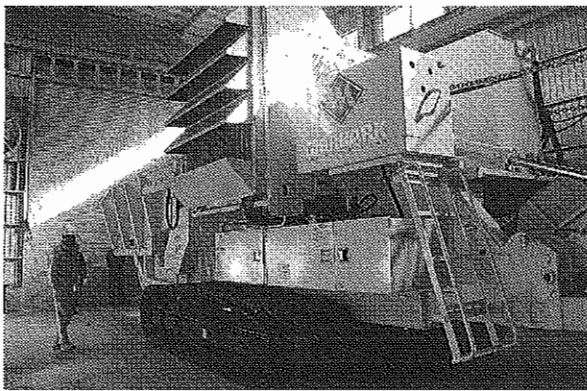


NJ素流協 News

平成22年10月31日

第70号

平成22年10月31日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>



三陸バイオマス(株)の大型チップパー

三陸バイオマス(株)用丸太(C・D材) 需給に関する情報交換会

十月二十七日、岩手県釜石市釜石・

大槌地域産業育成センター会議室
 において「三陸バイオマス(株)用丸太(C・D材) 需給に関する情報交換会」が開催された。これは全

国素材生産業協同組合連合会(全素協)が国の補助事業として行う「素材・森林バイオマス資源流通コーディネート事業」を受けて、NJ素流協が今年度の新規事業と

して取り組んでいるものである。

NJ素流協を含め、全国十四の素材生産、流通関係の組合が「流通コーディネート機関」として全素協から選定を受けている。

NJ素流協では、①A、D材特にC材、パルプチップ用材、D材、未利用材の需要実態調査、②需要側、供給側、行政機関が一堂に会しての情報交換会、③実際に取引を行う参画者の募集活動と需要者ニーズの把握、さらに技術指導の実施や低質材等の搬出に関する優良事例の調査・分析等を行うこととしている。

今回の情報交換会は、釜石市の新日本製鉄(株)(新日鉄)が運営する火力発電所で石炭に混ぜて燃やすためにD材を受け入れている事例を取り上げ、需要側である新日鉄と釜石地方森林組合の担当職員、供給側である素材生産事業体の代

表者、指導機関として岩手県沿岸広域振興局と釜石市の担当部課職員を招いて行った。その内容は次の通りである。

一 事業の概要説明

ア 新日鉄の釜石製鉄所における未利用間伐材等の活用による火力発電等への取組み

釜石製鉄所では独立系発電事業(一般事業者が電力会社へ電力を卸供給する事業)として石炭火力発電所を平成十二年七月より運転、五万世帯分の電力を供給している。今般、傘下に三陸バイオマス(株)を設立、国庫補助事業により大型チップを導入し、林地残材等をチップ化した木質バイオマス燃料を石炭に二%程度混入して燃やす「混焼」を開始した。これによって低質間伐材等を有効利用し、石炭・重油と置き換えることで、地球温暖化の要因である二酸化炭素の削減に寄与するとともに、地域林業の活性化に貢献し、鉄鋼業界の重要な課題に対処したい。

材の購入単価は現在トントン当たり

四五〇〇円で、これについても国から間伐材安定供給コスト支援(一年目三〇〇〇円/m²、二年目一五〇〇円/m²)を受けており、今後の目標は三〇〇〇円/トンにすることである。

計画当初は燃料用木材の安定供給が実現するかどうか最大の懸念であったが、実際には計画を上回るペースで材が集まっている。

森林組合との共同事業は本件が初めてであるが、地域に貢献することを念頭に置き取り組んでいる。

イ 釜石市における木質バイオマ

ス事業の取組み

釜石地方森林組合の地元林業は、間伐の遅れや採算性の悪化、また平成十六年の台風による土砂崩壊で森林が荒れるなど、問題をかかえていた。この解決と林業の活性化のため「緑のシステム創造事業」を立ち上げ、材の安定供給や間伐の推進に取り組んでいた。このうち林地残材の活用策として、新日鉄の火力発電所と供給協定を結び、今年春から木材を供給することに

なった。組合傘下の山林や周辺地域の素材生産現場から枝葉や切り株まで含めC・D材を集めており、計画では初年度は五千トンを発電所構内に搬入することになっていったが、現在すでに七千トンの木材が納入されている。

材の供給地域は、六二%が釜石・大槌エリアで、以下遠野二〇%、住田一〇%、気仙地方森林組合管内一%となっている。また本事業により雇用拡大が見込まれ、これまでに林業未経験の人や高校新卒者の新規雇用もあった。

二 事業について質疑応答

【質問】材の買取単価はどのように決められるのか?

【回答】(新日鉄)単価は石炭の価格を見ながら三ヶ月ごとに設定することになっている。石炭以上の価格にはならないが、原料炭自体三年前の価格の二倍以上に値上がりしている。最近の円高では、それが若干緩和した程度である。

【質問】発電所の単価が高ければ製紙用パルプチップがそちらへ流

れる。競合はどう回避するのか? 【回答】(釜石森組)森林組合で針葉樹チップの流通を調査したところ、大船渡の工場で年間八〇〇〇トン受け入れており、樹種は針葉樹より広葉樹を優先することだった。工場地元で針葉樹が年間八〇〇〇トン出材しているので、住田・遠野・釜石地域から出る三四〇〇トンについてはバッテリーグシないという見通しを立てた。 【質問】運搬について特に配慮している点は? 【回答】(釜石市)材を納入する運搬車は許可車両として登録しており、現在二二台となっている。山仕事の帰り荷として納入可能なのでメリットがあると考えている。

三 素材供給側からの情報 C・D材を採らない生産者(出席者のうち二名)：A・B材は製材、集材工場へ送り、C・D材は採らずに山へ置いている。 C材まで採っている生産者(四名)：会社の方針で必ずパルプ材まで採っているが不採算。C材の

取引だけ見れば赤字だが、委託している伐採業者や運搬業者と共同してやっていくために、会社の方針として出している。素材生産より森林整備が多い。C材は製紙用に納入している。

必ずC・D材を採っている生産者(二名)：林地に残すと再造林の邪魔になるので出すようにしている。広葉樹は製紙用、根株は欲しい人に、細いものは杭やパルプとして出して何とかしたい。林地が片付くので植付けをする人には喜ばれる。

運搬業者：自分の地元であまり材が出ないので、火力発電所には釜石地域の材も運んでいる。根株も運べるようにD材用箱型トラックを用意している。

協議の後、新日鉄総務部・千田マネージャーの案内で釜石工場の広大な敷地を見学した。木質バイオマス集積土場及びチップパー、火力発電所のほか、専用の埠頭や現在の新日鉄の主要事業である線材加工工場等を一巡りした。

一葉 樹木の病害虫 (7)

カイガラムシ類による広葉樹被害

最近、全国的に広葉樹の異変が進行している。夏に突然に葉が茶色になって落葉してしまふ(写真1)現象で、主に関西地方以西で発生していたが、最近関東・東北地方にも拡大している。

被害には、カツラマルカイガラムシ、ナラフサカイガラムシ、カシノナガキクイムシの三種の虫が関与していることが分かっている。岩手県内では、このうち前二種類による被害が確認されている。

被害状況は、二種類ともほぼ同じで、茶色になった葉は季節はずれの落葉をし、その後太い枝や幹から小さい枝が発生(胴吹き)し、特徴的な症状(写真2)を呈する。

激しい被害を受けた樹木は枯死する場合もあるが、多くは翌年に胴吹きした小枝に葉が茂げる(写真3)がその後被害木が枯死するの、快復するの、どのような経過をたどるのかはまだ分からない。

カイガラムシの仲間、全身を

貝殻のような介殻(ようかく)で覆っており、その中で口針を樹皮に押し込んで樹液を吸う。

カツラマルカイガラムシは、コナラ、ミズナラ、サクラ類、ホウノキ、クリ、カツラなど極めて多くの広葉樹に寄生する。被害は平成二二年現在で岩手県の紫波町、矢巾町以南で確認されている。本種は、以前からクリ園の害虫として知られており、防除法も開発されているが、今回のような山地での集団的・広域的な発生はなかった。

ナラフサカイガラムシは、コナラやミズナラに寄生し、被害木はカツラマルカイガラムシと同様の症状を呈する。最近、岩手県内各地で発生が確認されたが、同じような症状を呈するナラ類は以前から観察されていた。

両種の被害が、今後どのように推移するのかわからないが、まずは、被害の実態を把握することが肝要である。

(写真は岩手県林業技術センター提供)



写真1 夏の異常落葉



写真2 枝葉の再生(胴吹き)

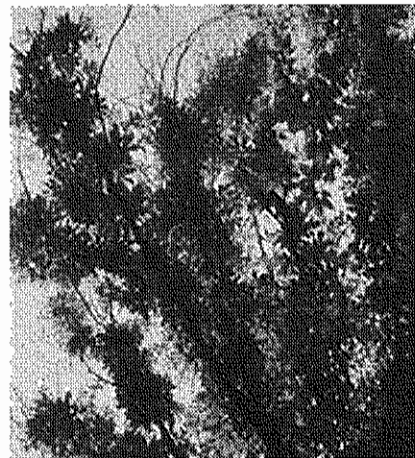


写真3 翌年の様子

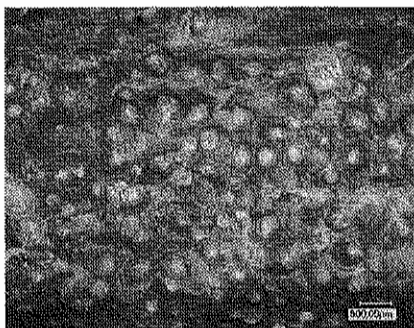


写真4 カツラマルカイガラムシ

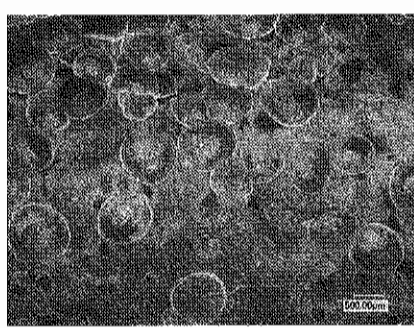


写真5 ナラフサカイガラムシ

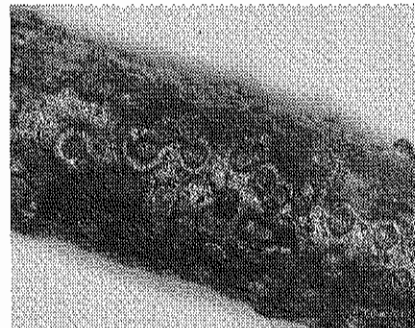


写真6 ナラフサカイガラムシ

【訂正】第六九号組合員紹介の
本文三段七行目に「なお、スウエー
デン製ハーベスタは、現在本州
に一台しかなく」とあるのは「フィ
ンランド製ハーベスタ」の誤り
でした。お詫びして訂正いたし
ます。

作業道散策

7

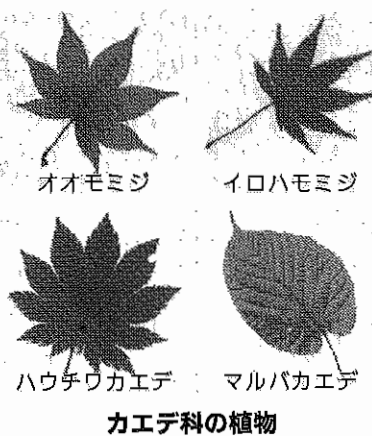
かえでともみじ

かえでともみじの違いを聞かれることがある。極めて一般的には、秋に紅葉する樹木のうち、葉の切れ込みが幼児の指のように深いものをイロハモミジのように〇〇モミジと呼ぶ。これに対して蛙の手(かえるて)のように切れ込みが浅いものをイタヤカエデのように〇〇カエデと呼ぶ。

しかし、かえでともみじにはもう少し複雑な背景があり、正確には二つの言葉の比較は難しい。

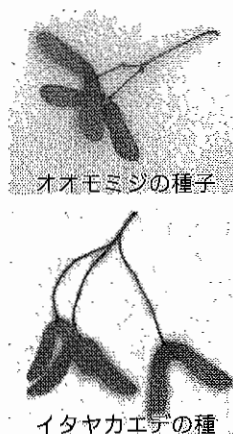
「かえで」とは

かえでという言葉は植物分類学



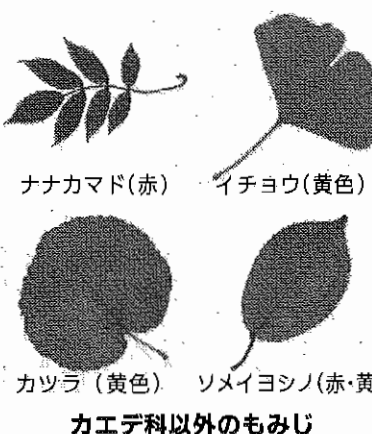
カエデ科の植物

上のグループの名前(カエデ科)として使われている。このグループには、イロハモミジやイタヤカエデのように手の形をした種類のほかに、葉の切れ込みが無いマルバカエデや完全に三つに分かれたミツデカエデなども含まれている。



カエデ科の共通した特徴は、羽状の種がプロペラのように二枚くついていることである。

「もみじ」とは



カエデ科以外のもみじ

漢字では紅葉で、紅く染まることを表す「もみず」から転化したと言われている。しかし、小学生唱歌「もみじ」に「松をいろどる楓や薫は「赤や黄色の色さまざまに」などと歌われており、さらに、秋

に葉が赤くなる草も草紅葉(くさもみじ)と表現される。このように、もみじは、赤に限らず秋に美しく変色する葉っぱ全体を表す言葉として使われており、文学的・感覚的な言葉である。

冗談欄 奇抜さで印象付け

大学生の今の就職活動は来春ではなく、来々春のものであり、あまりに早すぎてジツクリ学問が出来ないのでと問題になっているようだ。

近年の就職事情は超氷河時代と言われ、かなり厳しい状態にあることから、面接での奇抜な印象付けが効果あるのかも知れない。

マユツバものであるが、面接での珍答を紹介しよう。

(その1) 自動車販売会社の面接で「GNPについて答えて下さい」という間に「頑張れ、日産パルサー」と答えて合格した人がいたとか。

(その2) ビール会社の面接で、何も答えない人が居た。面接官に「最後に一言でもよいですから、何かないですか?」と聞かれ、「男は黙って、サッポロビール」と言ったとか。(古)

(その3) 面接中に両手を組んで

親指を回す癖をし始めた。落着かない態度に苛立った面接官は「君はそれしか出来ないのか」とたしなめた。すると彼は「いいえ、逆にも回せます」と言って、指を逆回転させた。

(その4) 学校から薦められて面接を受けることとなったが、行きたくない会社だったので、家族のことをきかれ「父親はろくに仕事もせずに酒ばかりのんでおり、兄貴は暴走族の頭で、...」と大嘘をついたが、「なんと正直な青年だ!」と感動され合格してしまったとか。

(その5) 「この会社を何で知りましたか」という面接官に「地図で知りました」と答えてしまったとか。

(その6) 面接官から「あなたの家の家業は何ですか」ときかれ、緊張の余り「カキクケコ」と言ってしまったとか。

平成 22 年 10 月 分 の 販 売 実 績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約1,720m³減少、カラマツが約550m³増加、アカマツが約830m³増加し、全体では約280m³減少している。昨年同月と比較すると、スギが約2,160m³増加、カラマツが約4,760m³減少、アカマツは約2,580m³増加し、全体では約90m³増加している。工場別ではホクヨープライウッドが前月比較で約770m³減少、昨年同月比較では約2,940m³減少、北日本プライウッドは前月比較では820m³増加、昨年同月比較では約2,580m³増加となっている。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は前月より約140m³減少している。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は前月より約160m³増加、昨年同月より約970m³増加している。
- 3 今年度の年間計画量に対する7か月あたりの出荷量の割合（目標達成率）を58.3%とすると、今月の合板用出荷及び全体出荷実績は、計画数量を5.3～7.6ポイント上回る進捗状況となっている。

(m³)

樹種	長級 (m)	販売先				計	今年度累計				
		合板用			その他		合板用	その他	計		
		ホクヨー プライウ ッド(株)	北日本プ ライウ ッド(株)	その他						小計	樹種別割合 (%)
スギ	2.0	2,332	2,538	365	5,235	1,447	10,381	45,537	48.7	11,772	82,426
	4.0	1,496	2,177	26	3,699			25,118			
	計	3,828	4,715	391	8,934			(4,788)			
カラマツ	2.0	3,005	2,005	59	5,068	105	7,959	40,274	41.4	1,537	61,583
	4.0	1,447	1,339		2,786			19,772			
	計	4,452	3,343	59	7,854			(3,027)			
アカマツ	2.0	1,978	415		2,393	36	2,808	12,294	9.6	71	14,001
	4.0	339	40		379			1,637			
	計	2,317	455		2,772			0			
その他針		28			28	5	33	(62)	0.0	157	219
広葉樹		86			86	229	315	260	0.2	474	734
合計					(1,887)	1,822	21,496	(7,877)	100.0	14,011	158,964
目標達成率(%)					19,674			144,953		46.7	63.6
計画数量								220,000		30,000	250,000
バイオマス用針葉樹チップ材 (単位:トン)											169.3

長級2.0には2.1を含む、() はシステム販売取扱量(内数)

落穂拾い

△本日は、平成二二年一〇月三十一日である。昨日のテレビ・ニュースを見ていて、わが国の首相の服装のセンスに愕然とした。一〇月の三〇日、ヴェトナムのハノイで開催される東アジアサミットに出席するために開催国の空港に降り立った時の映像で、首相は白っぽいハーフ・コートを着用した姿、多数の取り巻きに囲まれながらタラップを降りる際の周囲との服装の不調和さは異常であった。掃き溜めの中の白鳥気取りか、それとも独り目立つことが喜びなのか得意満面の顔つきであった。本人は得意なのかもしれないが、この姿を見た者の中にはサーカスのピエロと思っただけではないか、少なくとも筆者はそう感じた。国家の首脳が公式行事や国際会議に出席するために、相手に第一歩を降ろすときにはしかるべき服装や体裁があるのではないかと。首相官邸には首相の公式服装をチェックするスタイリストはいないのか。

ついでにもう一つ、これもテレビで、先のASEAN(アセアン)サミットの際のものだと思いが、中国の温家宝首相とわが国の菅首相が並んで座っている姿を真正面から写した映像が流れた。温家宝首相は姿勢正しく泰然と正面を見ていた姿であったが、菅首相の方は手にメモを持って一心不乱に目を通している姿であり、この対照的な映像を見た日本国民はどう感ずるのであるか。恐らく、この映像は会談前に設定されたテレビ撮影の際のものである。それならば一国の首相としての

体裁があるのではないかと。わが国の首脳外交は前途多難である。助けてくれ。

△「木造建築は地域文化である」といわれる。わが国はむかしから「軸組み構造」の住居を作る技術を守り育ててきた。この木造建築技術はわが国特有のものと考えられる向きもあるが、そうではない。ヨーロッパは石の文化といわれるが、それは中世以降のことであって、それ以前は森林の文化、すなわち木の文化であった。ノルウェーは、もともと日本のような軸組み構造の大教会を作る技術があったし、バイキングの船を作る三次元の構造をつくる技術があったが、大径木を生産する森林がなくなると、その技術が衰退し今やまったくそれらの技術がなくなってしまう。ところが近年になってエンジンリアリング・ウッド技術の発展・普及によって、木造建築技術の多様化・国際化が顕著になってきている。わが国としては今後、この木造建築技術の多様化・国際化の流れと軸組み構造のような日本の伝統的な木造建築技術というものをどう整合させていくか。大げさに言えば、これは、伝統技術と近代技術をどのようにつなげるかという問題である。また、木材利用に関する技術的な観点から見て、森林バイオマス原材料も含めた木材の生産側とそれを使う側の技術というものも分断されている。これらの分断をどのようにつなぐか。これらの各段階における分断の接続に果たす流通機能の役割は一層重要になるであろう。木材の流通機能の具体的な最適化は、「真の国産材時代」を実現するためのキーである。